

2022 年ゴールデンウィークのおでかけ指数

～イベント再開が人出増加に貢献

2022 年 5 月 23 日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

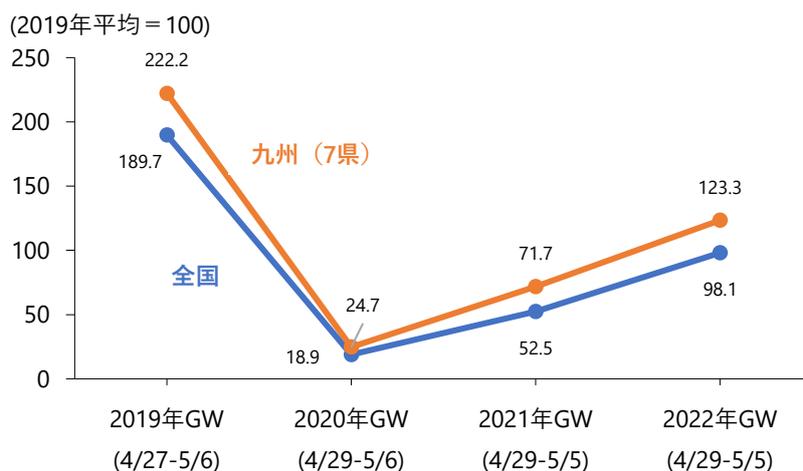
本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(<https://odekake-watcher.info/>) の掲載データ¹の一部を集約した「おでかけ指数²」により、2022 年のゴールデンウィーク（以下、GW）期間における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の 2 種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。



1. 全国・九州の動向：都道府県単位では 2019 年に対し 3～5 割減程度

2022 年 GW（4/29～5/5）におけるおでかけ指数（来訪地側・原数値の期間平均値）は、全国 98.1、九州（7 県）123.3 となり、全国ではコロナ禍前の 2019 年通年の平均並み、九州ではそれを上回る人流が生じた。2019 年 GWと比較すると、全国で▲48.3%で 5 割強程度の人流回復となるなか、九州は▲44.5%で 3.8%ポイント高く、相対的に強い回復傾向となった。

図 1 全国・九州（7 県）の各年 GW 期間におけるおでかけ指数の推移



注) 来訪地側・原数値の期間平均 資料) 九経調 DATASALAD

¹ 「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ブログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間 2,500 万 MAU）のスマートフォンから取得したものである。

² おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年の日平均を 100 とした指数である。

地域別に2022年GWの指数をみると、ブロック別では甲信越（157.9）や四国（156.9）、北陸（153.0）、都道府県別では高知県（186.5）、鳥取県（177.9）、富山県（176.3）などで特に高くなっている（表1）。全体としてみれば、地方圏で高く、東京都（48.7）をはじめとする南関東（60.2）および大阪府（65.1）、愛知県（83.8）のように三大都市で低い結果となった。札幌広福の広域中心都市を含む4道県では、福岡県が96.0で最も低く、他はそれぞれ北海道142.4、宮城県112.7、広島県126.3と高水準になっている。2019年GW比では、前述の通り全国が▲48.3%であるのに対し、甲信越（▲42.1%）、北陸（▲43.6%）、北海道（▲44.3%）の回復幅が比較的大きい。一方、前年比で見れば、京都府（+230.2%）や大阪府（210.6%）と200%超、東京都で+177.7%と、前年の反動から大都市において増加幅が大きい。

なお、九州の2022年GWの指数は福岡県が96.0と最も低く、150を超える大分県、長崎県、熊本県、宮崎県と異なる状況がみられる。三大都市圏以外の地方圏に属する都道府県のなかで100を下回っているのは沖縄県（83.6）と福岡県のみであり、特に沖縄県は東京都、大阪府に次ぐワースト3位で依然として戻りが弱い。

表1 地域別おでかけ指数（各年GW期間）

地域	2019年	2020年	2021年	2022年		2019年比
	(4/27-5/6)	(4/29-5/6)	(4/29-5/5)	(4/29-5/5)	前年比	
全国	189.7	18.9	52.5	98.1	+ 87.0%	▲ 48.3%
北海道	255.7	30.1	96.0	142.4	+ 48.4%	▲ 44.3%
東北	265.5	26.8	82.5	143.2	+ 73.6%	▲ 46.1%
青森県	314.3	33.3	97.8	165.8	+ 69.6%	▲ 47.3%
岩手県	267.4	28.9	95.3	157.9	+ 65.8%	▲ 40.9%
宮城県	220.2	23.7	61.0	112.7	+ 84.7%	▲ 48.8%
秋田県	317.5	28.0	97.2	171.7	+ 76.6%	▲ 45.9%
山形県	290.4	23.2	80.6	159.9	+ 98.4%	▲ 44.9%
福島県	250.8	26.2	84.6	133.6	+ 57.9%	▲ 46.7%
北関東	257.1	22.6	89.2	135.9	+ 52.4%	▲ 47.1%
茨城県	227.3	25.7	83.5	125.8	+ 50.7%	▲ 44.7%
栃木県	297.5	19.9	97.1	149.0	+ 53.4%	▲ 49.9%
群馬県	256.8	21.2	89.0	136.6	+ 53.5%	▲ 46.8%
南関東	128.3	13.1	29.9	60.2	+ 101.3%	▲ 53.1%
埼玉県	185.3	21.6	59.5	85.5	+ 43.7%	▲ 53.9%
千葉県	194.3	19.5	63.2	92.1	+ 45.8%	▲ 52.6%
東京都	104.9	10.4	17.5	48.7	+ 177.7%	▲ 53.6%
神奈川県	158.5	16.5	47.0	76.4	+ 62.6%	▲ 51.8%
甲信越	272.7	21.6	93.4	157.9	+ 69.2%	▲ 42.1%
新潟県	261.2	29.4	92.6	152.2	+ 64.4%	▲ 41.7%
山梨県	270.4	16.9	96.3	148.6	+ 54.3%	▲ 45.1%
長野県	284.6	17.1	92.4	168.2	+ 82.0%	▲ 40.9%
東海	199.3	19.8	63.5	103.0	+ 62.1%	▲ 48.3%
岐阜県	254.2	26.9	89.7	147.0	+ 63.8%	▲ 42.2%
静岡県	223.5	16.6	77.0	111.9	+ 45.3%	▲ 50.0%
愛知県	161.0	19.7	47.5	83.8	+ 76.6%	▲ 47.9%
三重県	229.1	21.5	65.1	111.0	+ 70.5%	▲ 51.5%
北陸	271.1	17.1	74.8	153.0	+ 104.6%	▲ 43.6%
富山県	303.7	16.8	86.4	176.3	+ 104.0%	▲ 41.9%
石川県	249.5	15.3	68.8	135.4	+ 96.9%	▲ 45.7%
福井県	277.8	20.5	74.1	161.4	+ 117.9%	▲ 41.9%
近畿	182.7	19.5	34.3	91.1	+ 165.3%	▲ 50.1%
滋賀県	232.3	21.3	66.7	123.5	+ 85.2%	▲ 46.8%
京都府	204.7	18.4	33.3	110.0	+ 230.2%	▲ 46.3%
大阪府	142.5	16.4	21.0	65.1	+ 210.6%	▲ 54.3%
兵庫県	199.7	22.5	35.8	98.3	+ 174.6%	▲ 50.8%
奈良県	239.9	28.1	67.9	132.1	+ 94.6%	▲ 44.9%
和歌山県	263.3	26.9	78.2	139.4	+ 78.3%	▲ 47.1%
中国	257.7	24.3	79.5	138.9	+ 74.7%	▲ 46.1%
鳥取県	342.4	25.4	92.7	177.9	+ 91.8%	▲ 48.1%
島根県	303.2	26.3	102.1	169.4	+ 66.0%	▲ 44.1%
岡山県	227.8	22.5	64.6	119.7	+ 85.3%	▲ 47.5%
広島県	236.8	24.7	76.3	126.3	+ 65.6%	▲ 46.6%
山口県	279.2	24.7	90.0	158.5	+ 76.2%	▲ 43.2%
四国	287.2	23.2	73.5	156.9	+ 113.4%	▲ 45.4%
徳島県	294.8	22.8	67.3	145.6	+ 116.3%	▲ 50.6%
香川県	271.7	16.6	62.1	142.0	+ 128.8%	▲ 47.8%
愛媛県	283.1	26.9	61.7	155.9	+ 152.4%	▲ 44.9%
高知県	305.8	25.5	111.1	186.5	+ 67.8%	▲ 39.0%
九州	222.2	24.7	71.7	123.3	+ 72.0%	▲ 44.5%
福岡県	179.9	20.5	53.5	96.0	+ 79.5%	▲ 46.6%
佐賀県	250.8	19.0	76.1	141.6	+ 86.2%	▲ 43.5%
長崎県	271.8	22.4	75.9	156.0	+ 105.5%	▲ 42.6%
熊本県	249.5	37.4	96.7	152.3	+ 57.5%	▲ 38.9%
大分県	284.9	29.7	95.9	157.0	+ 63.8%	▲ 44.9%
宮崎県	268.9	28.0	92.7	152.6	+ 64.7%	▲ 43.2%
鹿児島県	238.7	27.7	83.4	124.5	+ 49.3%	▲ 47.8%
沖縄	171.6	12.3	58.4	83.6	+ 43.2%	▲ 51.3%

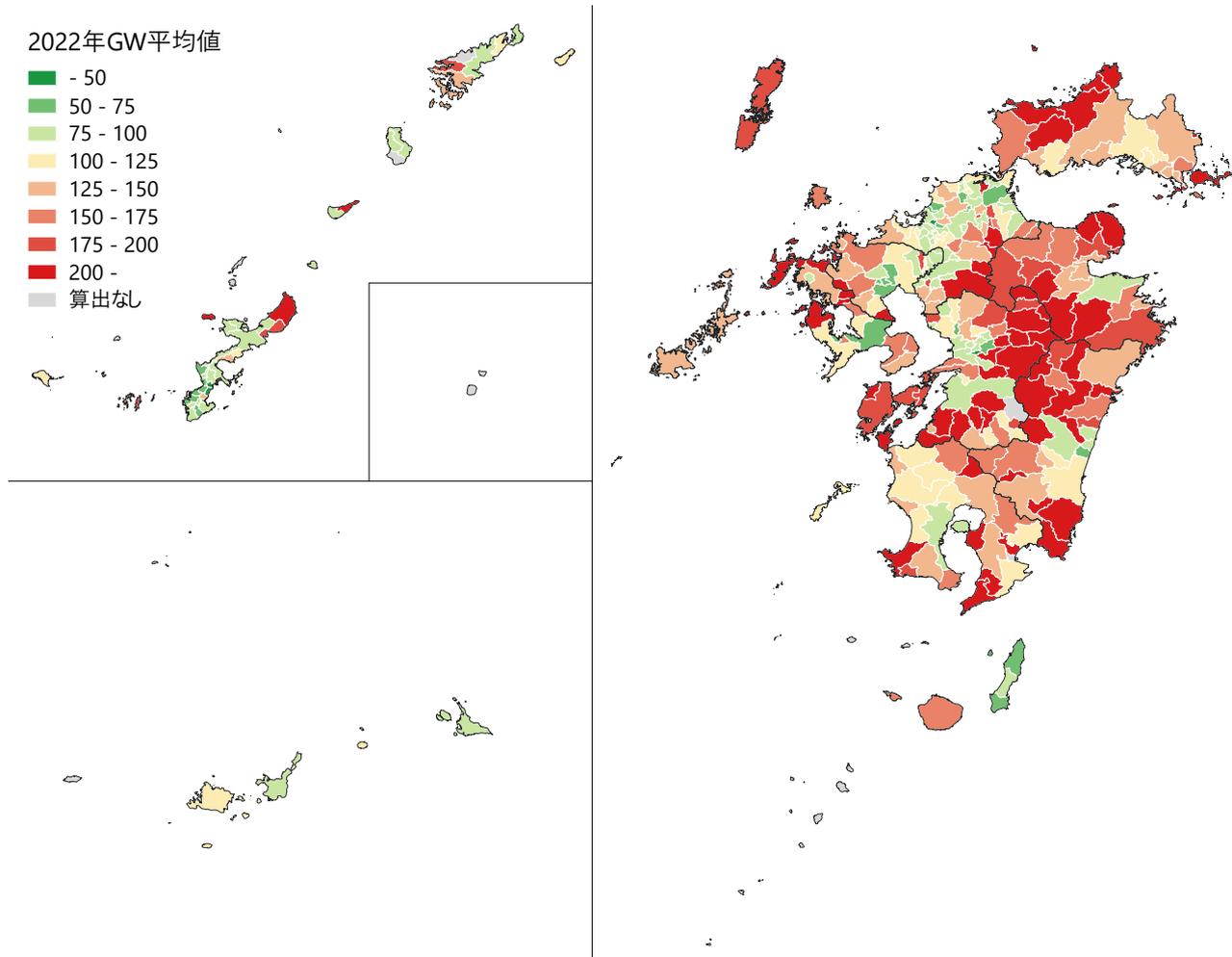
注) 来訪地側・原数値の期間平均 資料) 九経調 DATASALAD

2. 九州地域における市区町村別の動向：イベント開催が人出増加に貢献

九州地域（九州・沖縄・山口）における市区町村別のおでかけ指数は、算出対象 296 市区町村のうち 199 市区町村（67.2%）で 100 以上、62 市区町村（20.9%）で 200 以上となった。また 2019 年 GW と比較すると、小規模な自治体を中心に 13 市町村（4.4%）で 2019 年 GW を上回った。

市区町村別のおでかけ指数を地図で示すと図 2 の通りである。全体的な傾向として都市部で低く、山間部などで高い。

図 2 2022 年 GW における九州地域の市区町村別おでかけ指数



注) 来訪地側・原数値の期間平均 資料) 九経調 DATASALAD

次に、2019年の日平均来訪者数が1,000人以上の市区町村に絞り、2022年GWにおけるおでかけ指数のトップ30(表2)、および2019年GWに対する2022年GWのおでかけ指数の比のトップ30(表3)を示した。

表2 2022年GWのおでかけ指数
九州地域上位30

順位	市区町村	指数
1	長崎県波佐見町	1251.0
2	佐賀県有田町	881.7
3	福岡県東峰村	474.3
4	熊本県水俣市	323.2
5	長崎県西海市	284.1
6	熊本県山都町	283.9
7	熊本県小国町	283.1
8	鹿児島県長島町	275.7
9	熊本県阿蘇市	269.5
10	熊本県西原村	265.2
11	大分県竹田市	264.3
12	鹿児島県南さつま市	252.9
13	熊本県高森町	240.3
14	熊本県芦北町	235.5
15	大分県九重町	233.0
16	長崎県松浦市	231.8
17	鹿児島県垂水市	230.9
18	山口県長門市	228.0
19	福岡県添田町	227.1
20	福岡県うきは市	226.6
21	熊本県南阿蘇村	223.1
22	山口県萩市	221.4
23	山口県美祢市	220.9
24	長崎県平戸市	220.5
25	福岡県北九州市八幡東区	220.2
26	沖縄県国頭村	217.5
27	山口県周防大島町	216.3
28	大分県豊後大野市	214.7
29	福岡県八女市	211.7
30	宮崎県日南市	211.6

注) 来訪地側・原数値の期間平均(2022年GWの期間は4/29-5/5)。ランキング対象は、2019年の日平均来訪者数が1,000人以上の市区町村
資料) 九経調 DATASALAD

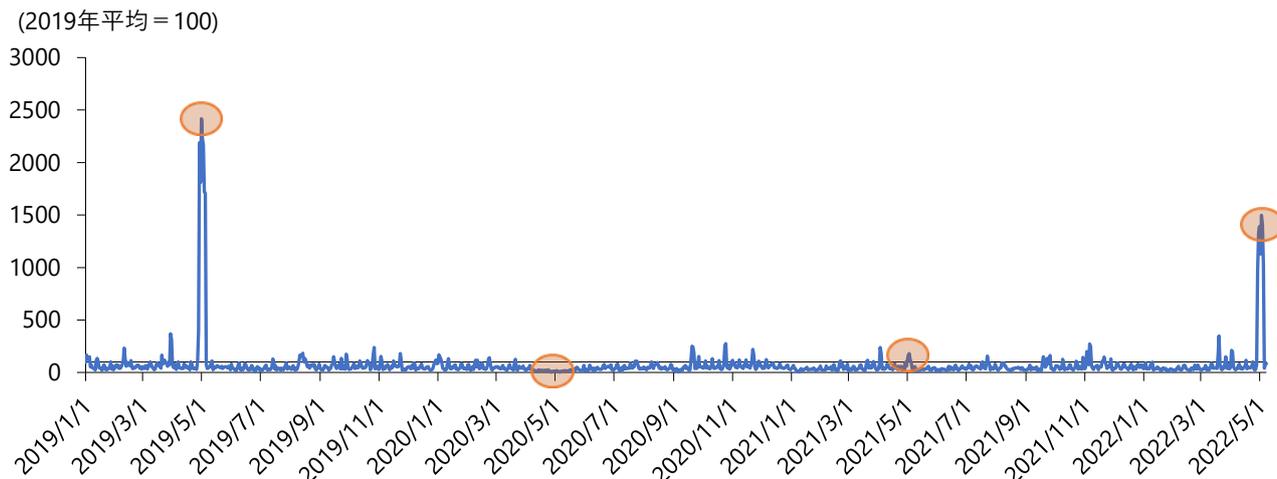
表3 2022年GWのおでかけ指数2019年GW比
九州地域上位30

順位	市区町村	2019年GW比
1	長崎県対馬市	+ 20.4%
2	福岡県うきは市	+ 13.5%
3	福岡県東峰村	▲ 0.8%
4	福岡県糸田町	▲ 3.1%
5	佐賀県有田町	▲ 4.2%
6	福岡県宮若市	▲ 5.9%
7	熊本県西原村	▲ 13.6%
8	長崎県波佐見町	▲ 15.5%
9	長崎県西海市	▲ 16.7%
10	熊本県高森町	▲ 17.4%
11	福岡県北九州市八幡東区	▲ 17.5%
12	熊本県芦北町	▲ 19.4%
13	福岡県朝倉市	▲ 19.5%
14	佐賀県太良町	▲ 20.1%
15	熊本県宇土市	▲ 20.2%
16	福岡県筑前町	▲ 20.8%
17	山口県山陽小野田市	▲ 21.1%
18	熊本県阿蘇市	▲ 21.8%
19	福岡県香春町	▲ 22.0%
20	熊本県大津町	▲ 22.7%
21	福岡県添田町	▲ 22.8%
22	長崎県松浦市	▲ 23.0%
23	大分県竹田市	▲ 23.1%
24	鹿児島県南さつま市	▲ 24.9%
25	大分県国東市	▲ 25.1%
26	長崎県平戸市	▲ 26.0%
27	大分県豊後大野市	▲ 26.4%
28	山口県柳井市	▲ 27.8%
29	沖縄県宮古島市	▲ 27.8%
30	山口県周防大島町	▲ 28.1%

注) 来訪地側・原数値の期間平均(2022年GWの期間は4/29-5/5、2019年GWの期間は4/27-5/6)。ランキング対象は、2019年の日平均来訪者数が1,000人以上の市区町村
資料) 九経調 DATASALAD

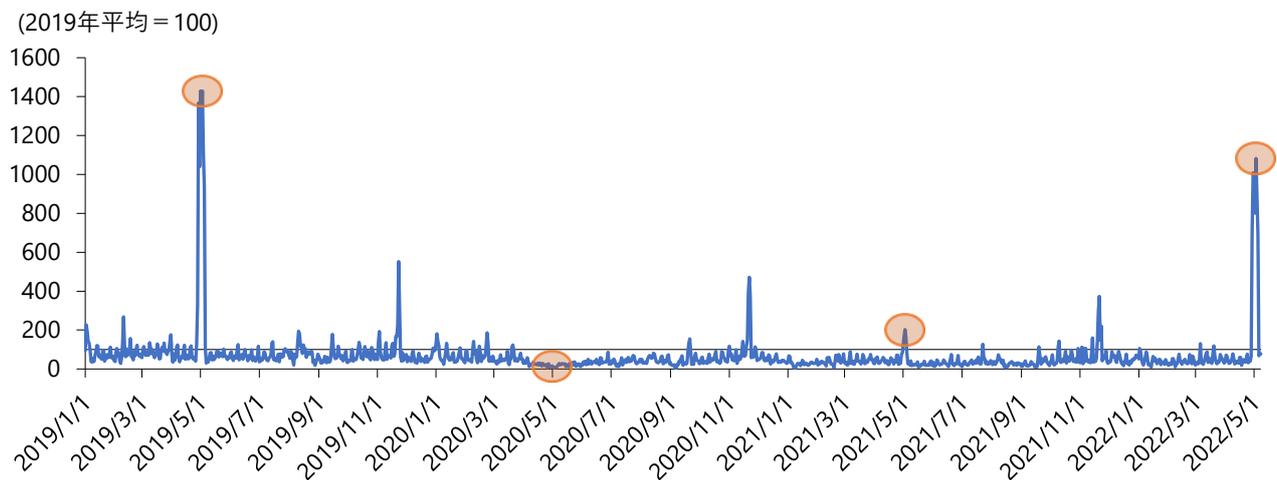
指数が1～3位の長崎県波佐見町(1251.0)、佐賀県有田町(881.7)、福岡県東峰村(474.3)では、2019年通年平均の4.7～12.5倍の来訪者数が観測された。福岡県東峰村(▲0.8%)や佐賀県有田町(▲4.2%)で2019年GWに迫る水準に回復したほか、長崎県波佐見町(同▲15.5%)でも85%程度まで回復した。これらの町村ではいずれも陶器に関するイベント(波佐見陶器まつり(4/29～5/5)、有田陶器市(4/29～5/5)、春の民陶むら祭(5/1～5/8))が3年ぶりに開催されたという共通点がある。2022年GWはコロナ禍後で初めて緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの制限がないGWとなり、久しぶりの開催となった集客イベントが人流増加に貢献した。これら3町村の推移は図3～5の通りであり、イベント開催の有無によって大きな差が出たことを確認できる。

図3 長崎県波佐見町におけるおでかけ指数（原数値）推移



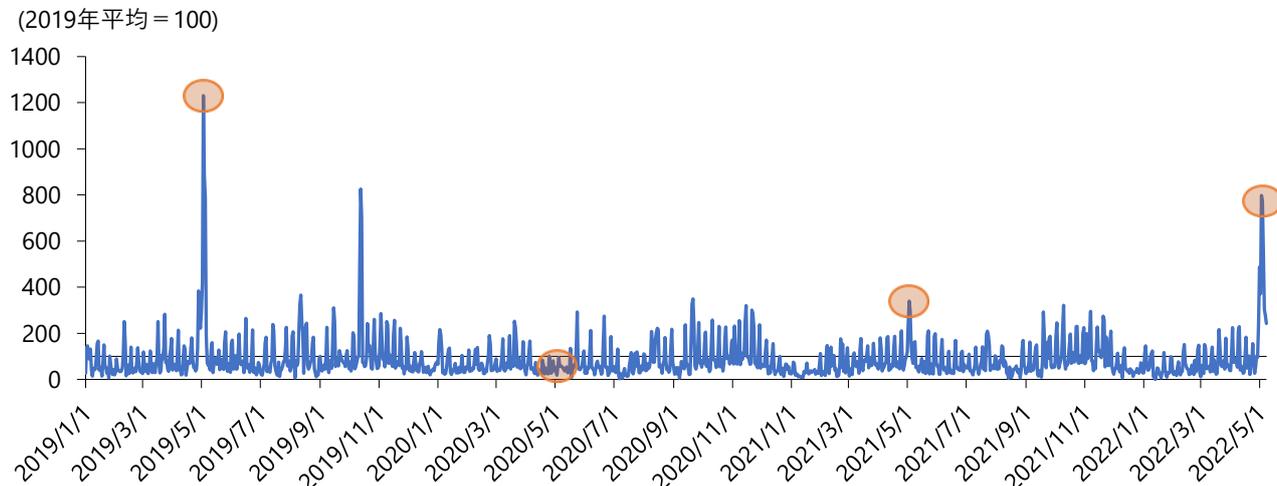
注) 丸囲みは各年 GW におけるピーク時 資料) 九経調 DATASALAD

図4 佐賀県有田町におけるおでかけ指数（原数値）推移



注) 丸囲みは各年 GW におけるピーク時 資料) 九経調 DATASALAD

図5 福岡県東峰村におけるおでかけ指数（原数値）推移

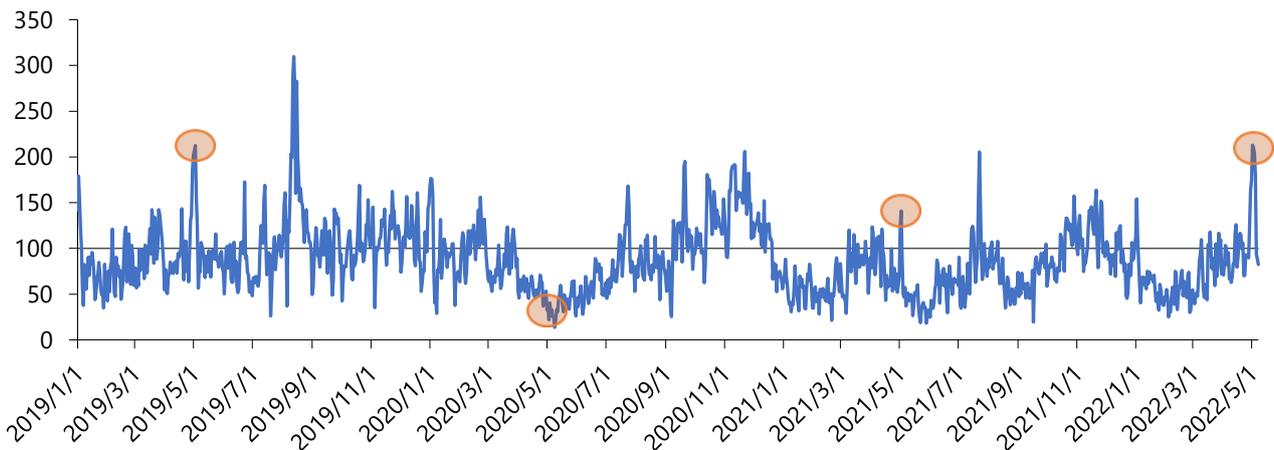


注) 丸囲みは各年 GW におけるピーク時 資料) 九経調 DATASALAD

また2019年GW比の上位の市町村では、対馬市(+20.4%)とうきは市(+13.5%)でプラス、つまり2019年を上回る来訪者数となった。対馬市は元々韓国からの観光客が多かったが、2019年の韓国との関係悪化以後は客数が大幅に落ち込み、さらにコロナ禍が追い打ちとなった。そこで国内客の集客に力を入れたところ、Go Toトラベルの後押しがあった2020年秋や、感染が落ち着いていた2021年11~12月には指数が100を超えていた(図6)。今回のGWでも5/2-5/3にかけて200を超えるなど集客に成功している。またうきは市の推移を確認すると、コンスタントに100を超えているなど、コロナ禍にあっても安定した集客を確保できている(図7)。

図6 対馬市におけるおでかけ指数(原数値)推移

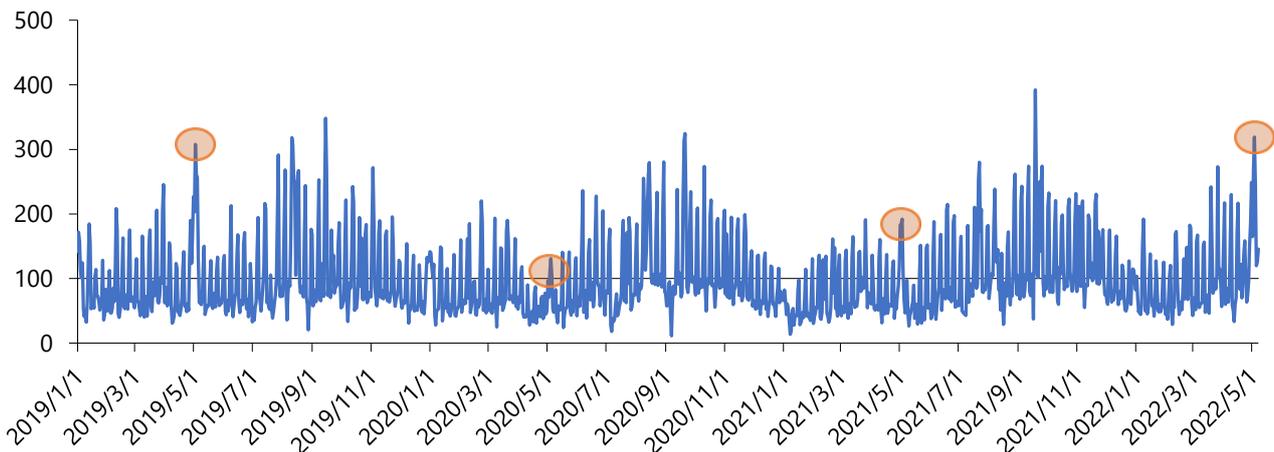
(2019年平均 = 100)



注) 丸囲みは各年GWにおけるピーク時 資料) 九経調 DATASALAD

図7 うきは市におけるおでかけ指数(原数値)推移

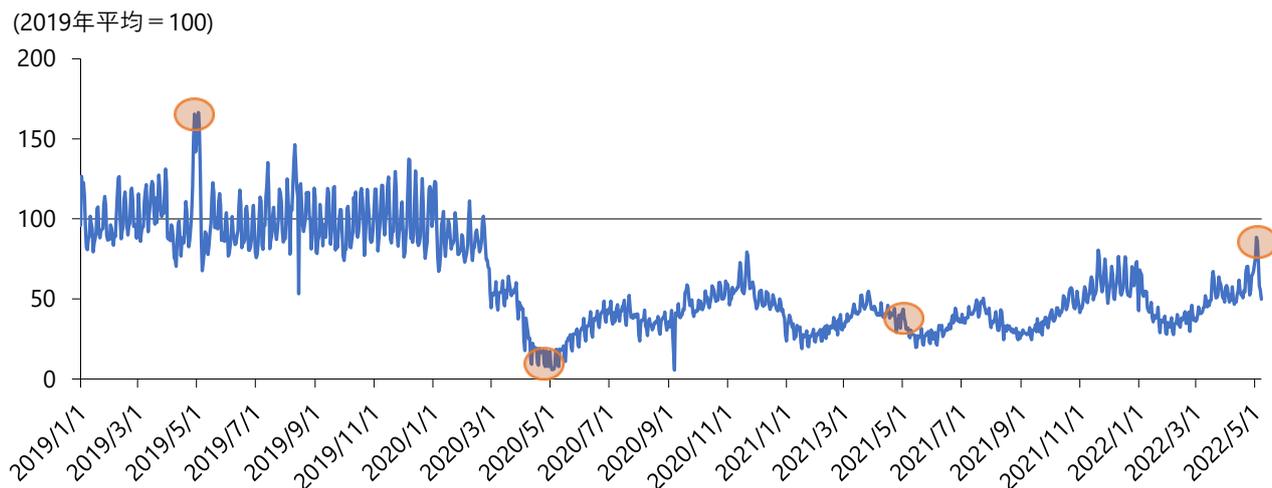
(2019年平均 = 100)



注) 丸囲みは各年GWにおけるピーク時 資料) 九経調 DATASALAD

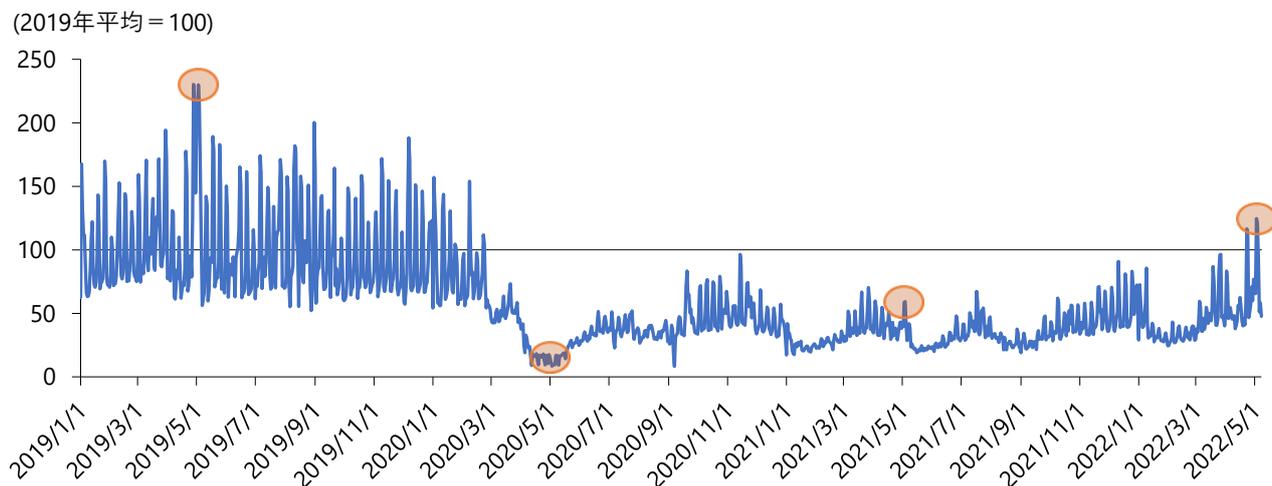
ランク外ではあるが、今回のGWは都市部においても、2020～2021年に中止されていたイベントが開催された。例えば福岡市では、博多どんたく（福岡市民の祭り 博多どんたく港まつり）が規模を縮小しながらも開催された。開催期間の5/3-5/4にかけて、会場となった博多区では指数が80台後半、中央区では120台前半まで上昇した。もともと人流が多い都市部であり、また博多どんたくは市民参加型のイベントで観客も市民が多いと想定される³ことから、前述の市町村ほど顕著な上昇ではないが、開催期間中はGW期間のなかでも高い値となっており、集客に大きな効果があったと考えられる。

図8 福岡市博多区におけるおでかけ指数（原数値）推移



注) 丸囲みは各年GWにおけるピーク時 資料) 九経調 DATASALAD

図9 福岡市中央区におけるおでかけ指数（原数値）推移



注) 丸囲みは各年GWにおけるピーク時 資料) 九経調 DATASALAD

小柳 真二（事業開発部 主任研究員）

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp

³ おでかけ指数が対象としているのは、発地（居住地域）から20km離れた場所からの来訪者であるため、概ね福岡都市圏からの来訪者はカウントされない。

参考：おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の 2019 年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側（着地側。ある市区町村への来訪者数）と、発地側（ある市区町村（居住地域とみなされる市区町村）からの出発者数）の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである（試作版のため、今後変更の可能性がある）。

①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー（以下、OW）と同じく、毎週月～日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している（複数地点を訪れた場合も 1 人とカウント）。来訪地側（着地側）のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村（基礎自治体）がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点（2021 年 10 月）に九経調がデフォルトとして設定したスポット（※）を対象としている。

※各市区町村において来訪者数（2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数）が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接（メッシュ中心間の距離が 500m 以内）するメッシュは除外した。

③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

④指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

⑤算出方法

各地域（市区町村や都道府県等）について、2019 年の 1 日当たり平均人数を 100 として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を 7 日間周期のデータとみなし、トレンド成分（中長期的変動）、曜日成分（曜日による変動）、イベント成分（天候やイベント（催事）等による短期的変動。他の 2 つの残差）の 3 つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

$$\text{原数値} = (\text{各日人数} \div \text{2019 年の 1 日当たり平均人数}) \times 100$$

$$\text{トレンド値} = \text{トレンド成分} = \text{原数値} - \text{曜日成分} - \text{イベント成分}$$

$$\text{曜日調整値} = \text{原数値} - \text{曜日成分}$$

⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域（離島等）が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019 年において来訪者数・出発者数が計測される日が 180 日未満の自治体については指数を算出しない。